



154億円のうち市民負担は125億円 新町西再開発・3つの大問題とは

最大の課題点

「財政危機宣言」中の徳島市 市民には「お金がない」からと、(県庁所在都市で)全国一高い国保料や介護保険料を押しつけ、その一方で「お金がないハズ」なのに、百五十四億円(うち百二十五億円が市民負担)もの新町西再開発を強引に推進する原市政 「新町西再開発は止めて、国保料・介護保険料の引き下げや、防災対策にお金を使って」という声が、多くの市民から挙がっていますが、当たり前です。

この新町西再開発 「莫大な税金を投入する」問題の他、「三つの大問題」を抱えており、まさに「ムダ使い」の典型事業 多くの市民のみならず、「一緒に、白紙撤回させねばなりません」。

新町西再開発:

全国にも例がない

事業目的に反したムダな事業

「新町西再開発の事業目的」は「中心市街地活性化」です。この再開発の八割を占めるのが音芸



ホール 「音芸ホールで中心市街地活性化になったところは、全国で一つもない」ことが、徳島市議会でも明らか(一例を一つも挙げられない)になっています。

そのことは文化センターや郷土文化会館やアステীর周辺をみても明らかです。なぜでしょう? 「本番中」以外は閉館しているからです。文化センターの場合、「年のう

ち半分程が閉館している「んです」。

「中心市街地活性化」という事業目的に反した新町西再開発は「ムダな事業」の典型 白紙撤回させる以外ありません。

二つ目の課題点

新町西再開発:

議会にも市民にも隠し

闇の中で推進

新町西再開発の八割を占める音芸ホール 「なぜ普通の公共事業でやらないのか?」という疑問がたくさん挙がっていますが当たり前 「普通の公

共事業」なら「有り得ないこと」が「再開発」では「できる」からそれが「議



会にも市民にも隠し、闇の中で推進できるシステム」です。

市民の莫大な税金を「ゴレッチョ」という地元組織に渡し、「ナカミの推進」を「ゴレッチョ」に「丸投げ」している原市政 「普通の公共事業」なら有り得ない構図です。

音芸ホールは再開発でなく、「普通の公共事業」で、市民や議会の要望を充分に反映したナカミで推進すべきです。

三つ目の課題点

新町西再開発:

徳島市も一緒に推進する

ゼネコンの仕事づくり

百五十四億

円もの新町西再開発事業を請け負うのは「大和小田急建設」 県外のゼネコンです。私は全国の再開発事業をいろいろと視察して回りましたが、共通していたのは「再開発はゼネコンの仕事づくり」でした。ちなみに徳島駅前の「そごう・アミコビル」建設を請け負ったのも県外の大



手ゼネコンでした。

地方の公共事業がドンドン縮小されている中、大事なものは「地元の公

共事業を増やすこと」 新町西再開発を止め、防災対策など、地元（市内）の



業者が請け負える公共事業を増やすべきです。そんな市政を実現させるため、市民のみなさんと一緒に、新町西再開発を白紙撤回させるようがんばります。

未来に誇れる「いいホール」を

当面は、文化センターを耐震・リニューアル

五月末、徳島新聞一面の『鳴渦』欄に、「新町西再開発の音芸ホール」の記事が掲載されました。「なるほど」と思って拝読しましたが、一つは「新しいホールができるときは 喜びを持って迎えられるのが普通 だが（新町西再開発の音芸ホールには）歓迎ムードがほとんど感じられない」と述べている点。二つ目は「（新町西再開発の）新しいホールに市のビジョンが感じられず、市民が夢を抱けない」と述べている点。そして三つ目は「（新町西再開発の）新ホール建設を商店街の客寄せの手段と位置づけてきた徳島市への不信感は、なかなか消えそうにない」と述べている点。いずれも、多くの市民の方々の声を反映しているものです。未来に誇れる「いいホール」を建設するためには、どうすればいいのか、について触れておきます。

視察してわかった・・・

他の自治体は「財政難だから」と

耐震・リニューアルでホールを長持ち

原市長を先頭に、新町西再開発の音芸ホール「推進派は、文化センターは老朽化が著しい（から）壊す以外な



徳島市文化センター

抱き、「文化センターと同時期に建設された同規模のホール（全部で十五ヶ所ほど）」を視察して回ったのが今年の一月～二月、「十五ヶ所のうち四ヶ所を（視察して驚いた）のは、四ヶ所とも「耐震・リニューアルして長持ちさせていた

い」と言い続けてきました。「本当にそうだろうか？」と疑問を



こと「財政難だから長持ちさせない」という言葉が共通していました。

耐震・リニューアル費は

新町西再開発の

音芸ホールの十分の一

視察してきたのは、愛媛県の今治市と新居浜市 京都府福知山市と鳥取県米子市です。

米子市のホールは、「耐震診断の結果、倒壊する危険性が高い、ということ」で休館中でした。そのホールを「耐震・リニューアルすれば、今後二十年以上長持ちさせられる」ということで、十五億二千万かけて改修工事することになっていました。



米子市のホール

福知山市のホールは、五億六千五百万円かけて改修されていきました。舞台や音響が一新され、ピアノもスタンウェイを購入 椅子も、ゆったり座れる「ようになっていました。

いずれの改修費も新町西再開発音芸ホールの十分の一程度 「財政危



新装の福知山ホール音響板



機宣言」の徳島市も文化センターを長持ちさせる道に進むべきです。

原市政は文化センターを

耐震診断もしないで

放ったらかし

原市政の最大の問題は、文化センターを耐震診断もしないで放ったらかしにし、「壊す以外にない」と勝手に決めつけて、新町西再開発の音芸ホールを推進していることです。

ちなみに米子市は日本建築総合試験所が 福知山市は日建設計が いずれもプロが診断し、耐震・リニューアルを進めていました。

文化センターを長持ちさせ

積立金を増やし

「いいホール」を建設すべき

「旧動物園跡地にホールを建設する」という『最終報告書』を、徳島市が設置した市民会議が、原市長に提出したのに、それを踏みにじって推進しているのが新町西再開発の音芸ホールです。

今、「ホール建設の積立金」が約十六億円ありますが、文化センターを長持ちさせ、この積立金を増やし、それを元手に、未来に誇れる「いいホール」をつくること。それが、多くの市民の声・願いです。